

県大・市大

公開講座 2014

県立広島大学・広島市立大学 連携公開講座

7/1~7/29 毎週 火曜日 18:20-19:50
サテライトキャンパスひろしま

講座 ① ひろしま学を考える 全5回 無料

7月1日 | **広島という地名**
講師：県立広島大学・教授 秋山 伸隆

7月8日 | **広島の芸能今昔**
講師：県立広島大学・教授 樹下 文隆

7月15日 | **世並屋伊兵衛の活動と城下町広島**
講師：県立広島大学・教授 西本 寮子

7月22日 | **広島の伝統ファミリー企業のリノベーション**
講師：広島市立大学・教授 金 泰旭

7月29日 | **広島の伝統工芸を見直そう**
講師：広島市立大学・准教授 大塚 智嗣

昨年度に引き続き「ひろしま学を考える part2」を開催します。「ひろしま学」が対象とするのは、広島県あるいは広島市という行政区画ではなく、内容的にも特定の分野だけに限定されるものではありません。二つの大学の5人の講師が、それぞれの視点から「ひろしま」を解き明かします。私たちが暮らす「ひろしま」のことを、もっとよく知りたいとお考えの皆さんのご参加をお待ちしています。

対象：どなたでも / 定員：80名 / 受講料：無料

お申し込みは、往復はがきで、

往信面の裏 ①郵便番号、②住所、③名前（ふりがな）、④電話番号

返信面の表 受講者の郵便番号、住所、名前（「〇〇〇〇様」）

を記入の上、平成26年6月16日（月）（消印有効）までに、
県立広島大学地域連携センター「ひろしま学講座」係宛に
申し込んでください。

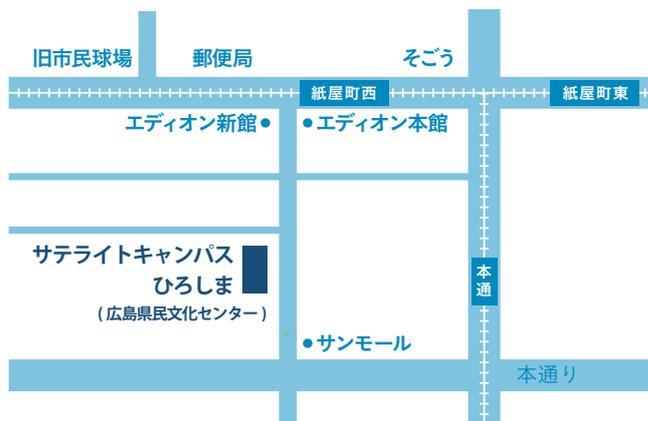
申込多数の場合は抽選とし、受講の可否は申込締切日以降に返信はがきで通知します。

<申込・問合せ先>

〒734-8558 広島市南区宇品東一丁目1番71号
県立広島大学地域連携センター「ひろしま学」講座係
TEL：082-251-9534

予告!

講座 2 「社会人のための英語再チャレンジ」9月3日~10月1日 毎週水曜日 全5回



サテライトキャンパスひろしま 〒730-0051 広島市中区大手町1丁目5-3

バス・電車：「紙屋町」または「紙屋町西」で下車
広島駅から → バス、電車で約10分 / 広島バスセンターから → 徒歩約3分
広島港から → バス、電車で約30分 / アストラムライン本通駅から → 徒歩約2分

「講座① ひろしま学を考える」講座の内容

7月 1日 広島という地名

講師：県立広島大学・教授 秋山 伸隆

広島という地名の由来については、大江広元の「広」と城地選定案内役の福島元長の「島」を合わせて毛利輝元が命名したとする説などが知られています。この講座では、諸説の妥当性について検証するとともに、柳田國男「廣島へ煙草買ひに」、福永武彦『死の島』にも触れたいと思います。

7月 8日 広島の芸能今昔

講師：県立広島大学・教授 樹下 文隆

神楽に花田植（囃子田）と昔から芸能の盛んな広島県からは、現在も多方面で活動するプロの芸能人が数多く育っています。芸どころ広島の歴史と現在を、少し趣味的な視点も交えながらジャンルを超えて概観することで、広島県人気質を考えてみます。あわせて、現代社会における古典芸能の意義についても考えてみます。

7月 15日 世並屋伊兵衛の活動と城下町広島

講師：県立広島大学・教授 西本 寮子

江戸時代後期、中嶋本町に世並屋という本屋がありました。売りさばき、出版、貸本と、総合的に書物を扱っていました。広島県内に残っている和本の調査から見えてきた世並屋の活動を通じて、江戸時代の商業出版の展開と書物文化についてお話しし、城下町広島の文化的土壌について考えます。

7月 22日 広島の伝統ファミリー企業のリノベーション

講師：広島市立大学・教授 金 泰旭

広島には、筆、針、やすり等の伝統産業があります。このような伝統産業の多くはファミリー企業ですが、伝統産業の国内需要が年々減少している中、技術者育成と事業継承の問題、新規事業創造といった様々な問題を抱えています。本講義では、伝統産業でポジショニングしながらも経営環境の変化にあわせて事業進化を遂げている革新的な広島の中小企業の事例を通じて、リノベーションの本質を考察していきます。

7月 29日 広島の伝統工芸を見直そう

講師：広島市立大学・准教授 大塚 智嗣

宮島には世界遺産に認定されている厳島神社がありますが、この神社の歴史とともに様々な伝統工芸が生まれ現在も受け継がれています。しかしながら国内はもとより県内の人にもこれらの伝統文化のすばらしさはあまり知られていません。また広島発祥でありながら現在はほとんど制作されていない剣玉や、今ではまったく制作されなくなった算盤などかつての広島の産業の歴史を紐解きながら、広島の伝統工芸を見直そうと思います。